

2026年度入学者選抜（A日程・1月24日）

国語試験問題

「現代の国語」、「言語文化」（小説・漢文を除く）

学芸学部…日本語日本文学科・国際コミュニケーション学科

人間社会学部…子ども教育学科・メディア情報学科・生活デザイン学科

社会マネジメント学科・人間心理学科

地域クリエーション学科

栄養科学部…健康栄養学科・管理栄養学科

国語・外国語・数学の中から1科目、生物基礎・化学基礎の中から1科目を選択した場合【2科目合わせ100分】

国語・外国語・数学・地理歴史の中から2科目を選択した場合【2科目合わせ120分】

一 つぎの文章を読んで、あとの問いに答えなさい（ただし、設問の都合上変更した箇所がある）。

少し恥ずかしいのだが、あまり共感を得られないであろう自分の癖の一つを書いてみる。日常生活のなかでふと、周囲に聞こえないくらいの声で「今」とつぶやく癖を私はもっている。正確な頻度は分らないが、少なくとも一日に一度はこれをやっているはずだ。

これはあくまで癖なので、明確な意図は伴っていない。しかし、「今」とつぶやくとき、私の心がどんなふうであるかを述べることには価値があるだろう。というのも、心と時間との関係を考えるうえで、この癖にまつわる心理を見ることは、あとあと意味をもってくるからだ。

思わず「今」とつぶやくとき、大まかに言って私の心は二つの作業をやっている。第一の、より説明しやすい作業は、「今」に注意を引き戻すというもの。いま目の前の状況こそがまさしく「今」の現実であると自覚し、過去や未来への雑念、あるいはその他の空想から現実^aに心向け変えるうえで、「今」というつぶやきは引き金^{トリガ}になっている。

ある科学論文によれば——あくまで限定的なチヨウサ結果ではあるが——人々は生活の半分近い時間を、目の前の現実と関わりのない思考に費やしているとされる。こうした心のさまよいは「マインド・ワンダリング」と呼ばれており、近年では多様な角度から研究が進められている。先記の作業は、マインド・ワンダリングから自分を呼び覚ますものと言えるだろう。

第二の作業は少し説明が難しい。その作業において、私はいわば、自分の人生に時間的なしおりを挟んでいる。ここまで読んだというしるしで本にしおりを挟むように、ここまで生きたというしるしで人生にしおりを挟むわけだ。そんなことがわざわざ必要なのは、人生全体をどこまで生きたかが何となくボンヤリしているからだ^bが、このボンヤリ感はマインド・ワンダリングにおけるそれと、だいぶ質が異なっている。

マインド・ワンダリングにおいては、この「今」という自分の時間的な足場はきちんと確保されていると言ってよい。ただ、その足場をしつかりと見ずに、あちこちを散漫に眺めているわけだ。A、注意を「今」に戻すとき、戻すべきところがどこなのかは、けっしてボンヤリとしていない。

これに対し、「今」というしおりを挟むことには、どこが足場であるのかを明確にする意味がある。たしかにここまで生きたのであり、だから、ここが「今」なのだ、自分に教え直す意味が。認知症の祖母と暮らした経験から言えば、自分がいつの時期の自分か分からなくなっている認知症患者は、人生という本の間違ったページを眼前に開いてしまっており、その誤りを正すためのしおりも所有していない状態に見える。

私は現在、認知症でなく、自分がいつの時期の自分か分からなくなることもないが、おそらくは、いま開いているページの開かれ方が若干弱い^②。だから、ときどき、このページを開いているものの「本当に今はこのページだったか？」と疑念をもつ——そしてしおりを挟む——ことになる。B、私はそのことであまり辛い気持ちにはならない。むしろ私的にはこの疑念は「ドツキリ」番組のような明るさをもっており、急にやって来たテレビタレントに「あなたがここまで生きてきた、というのは冗談でし

た」と言われて「なんだ」と笑うような（Ⅰ）を伴っている。

C、認知症の事例についてひとこと。自分がいつの自分であるか分からなくなっている人物は、通常、自分を過去の自分と取り違えており、たとえば、すでに老人なのに自分は未成年だと思ったりする。これは、未来の自分の記憶というものがない以上、とても自然なことだろう。ただ、私が祖母の言動でもっとも印象に残っているのは、彼女自身を弔う火葬場に行くので皆も早くシタクをしろと、私たちを叱ったことである。

そのとき祖母は（Ⅱ）のページを開いており、しかも自分の臨終より先のページを開いていたのだが、しかし、この間違いを除けば、家族を叱るその内容はそれなりに整然としたものだった。祖母はこの叱責を数年のうちに幾度も行なったので、彼女なりのストーリー（一貫性）がそこにはあったように思う。

「今」というしおりを人生に挟むとき、私は、どの時点が「今」かを意識しているだけでなく、どの諸時点も「今」が通過してきたか意識している。「ここまで生きてきた、というのは冗談」との心象をもつとき、その冗談性（虚構性）の重要な部分をこの「通過」への意識が担っている。

私は昔、小学生であり、中学生であり、高校生であった。三年の空白期間を経て、大学に入り、大学院に進み、結婚をし、シユウシヨクをした。数年前までは山口大学の時間学研究所という機関に勤めており、その後は京都大学の人間・環境学研究科に勤めている。

こんなふうに私が生きてくるあいだ、「今」もまた、それらの日々を通過してきたはずだ。いや、**D**、「今」が通過することによって私は、その各々の日を「今」として生きていることができたように思われる。しかし、こう記しながら、私は次のように問わざるをえない。通過した、その「今」って何だ、と。先記の日々を「今」が通過したとは、いったい、何がどうしたということなのか。

読者を置き去りにしないよう、いくつか個別の話題を経ながら、少しずつこの問いに近づいていこう。多くの人が、加齢とともに時間の過ぎるのがはやくなったと言う。二十代の十年に比べて、三十代の十年はあっという間。四十代の十年はさらにはやい——。こんなふうに述べるとき、人々は時間の過ぎていく速度を感じているかのようだ。

だが、そこで人々が感じているのは、速度^dというより短^aさである。つまり、二十代の十年より三十代の十年のほうが短く感じられる、といったことを、後者の「はやさ」として表しているわけだ。こうした短さの感覚は複数の要因をもつだろうが、そのなかでも、当該の期間に生じた出来事の質・量はとくに興味深い要因である。（心理学の知見では、たとえば、印象的な出来事が少なかつた期間ほど、あとで振り返ったときに短く感じられる傾向がある。）（中略）

ここで一つ問題を出そう。「時間の過ぎるのがはやい」という文の「はやい」は漢字でどう書くだろうか。「速い」だろうか、それとも、「早い」だろうか。

出版物での用法を見ると、大抵は「早い」が使われている。^⑦カンヨウに従うという点では、こちらが優勢と言えるだろう。しかし「速い」も見えないわけではなく、漢字の意味を考えると、どちらが正しいのか分からなくなってくる。

何らかの運動や変化がすばやく起こるとき、すなわち速度が大きいとき、私たちはそれを「速い」と表記する。他方、基準となる時間より前であるとか、ある期間の最初のほうであることは、「早い」と表記される。それぞれ例を挙げるなら、「彼は（Ⅲ）速い」、「彼女は（Ⅳ）早い」といったように。

「時間の過ぎるのがはやい」と言うとき、素朴に考えるなら、そのはやさは、「速い」と書くべき何かであるはずだ。時間の流れという（Ⅴ）を使うなら、その流れこそが速いわけである。しかし、河の流れの速さを見るように、時間の流れの速さを見ることはできない。そもそも速さの認識とは、ある特定の時間における運動や変化の量（たとえば一定の時間に流れる水の量）の認識なのであり、時間に関してそうした速さを認識するというのは奇妙である。

特定の時間における「時間の変化の量」とは、まさにその特定の時間にはかならない。一分間における時間変化の量は一分間、一時間における時間変化の量は一時間……、ここには「速い」も「遅い」もありえず、いったい何を使って何を計っているのかも明確ではない（メートルにおける空間変化の量がメートル、と言うのが意味不明であるのと同様）。

時間の過ぎるのが「早い」、という表記が優勢であるのは、河の流れの速さのように時間のそれを感じることではできず、ある出来事が思ったより早く生じたとの思いを経てのみ、過ぎた時間の短さを感じるからだろう。たとえば、四十歳の誕生日がとても早くやって来た——まだまだ先の気がしていたのに——というときなどのように。

時間が流れていく速度を見ることはできない、と私は述べた。しかし、いま目の前にある世界は変化し続けているように見えるし、その変化には一種の速度があるように思われる。もし、あなたの目になっている草木がすごい勢いで背を^⑧ノ^⑧ばし、あなたが瞬きをするほどのあいだに太陽が空を横切って日の出と日の入りを繰り返すようになったらどうか。草木や太陽だけでなく、周囲のあらゆる対象がこんなふうに早回しで変化するようになったら――。時間が高速で流れるのを見るとは、こうした経験ではないだろうか。

そうではない。いま記したような経験は、あなたの心身の変化速度とその他の事物の変化速度の比率^hが大きく食い違ったときに生じるのであり、時間そのものの流れの速度とは関係ない。

もし仮に時間が二倍の速度で流れ出し、あらゆる事物の変化が倍速になっても、だれもそれに気づかないだろう。私の心身の変化に対し、他のすべての事物の変化が倍速になることは理解可能だが（このとき私は倍速になった外界の変化を見る）、私の心身を含めた万物の変化が倍速になるとは、結局、何も起こっていないのと同じではないか。むしろ、この想定に対しては、「なぜ二倍になったと言えるのか」と問い返すのが適切である。その「二倍」という表現は、明確な意味を^gもはや失っているからだ。

（青山拓央「心にとって時間とは何か」による）

問一 二重傍線部①～⑧の漢字の読みをひらがなに、カタカナを漢字に直して答えなさい。

問二 空欄部 A D に入る最も適切な語をつぎの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい（ただし、同じ記号は二

度以上使用しないこと）。

ア とはいえ イ むしろ ウ だから エ ところで

問三 傍線部 a 「二つの作業」として適切なものをつぎの中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分の癖にまつわる心理から、心と時間の関係を考える作業。
- イ 自分が人生全体をどこまで生きたかを、ボンヤリ考える作業。
- ウ 人生という本に、ここまで生きたというしるしをつける作業。
- エ 現実とは関係ない心のさまよいから、自分を呼び覚ます作業。
- オ 目の前の状況から過去や未来、空想へと心に向け変える作業。

問四 傍線部 b 「だいぶ質が異なっている」の説明として最も適切なものをつぎの中から選び、記号で答えなさい。

- ア マインド・ワンダリングの状態にあるときは、自分の時間的な足場がどこにあるのかが分からないでいるが、「今」というしおりが必要な際には、その足場がそもそも存在していないということ。
- イ マインド・ワンダリングの状態にあるときは、目の前の現実が散漫に眺められているが、「今」というしおりが必要な際には、戻すべき「今」の場所を自分に教え直すことができないということ。
- ウ マインド・ワンダリングの状態にあるときは、現実と関係ない思考に時間が費やされているが、「今」というしおりが必要な際には、自分が人生全体をどこまで生きたかが不明瞭だということ。
- エ マインド・ワンダリングの状態にあるときは、過去や未来への雑念にとらわれているが、「今」というしおりが必要な際には、自分がいつの時期の自分か分からず記憶を失っているということ。

問五 傍線部c「人生という本の間違ったページ」について、つぎの(1)・(2)の問いに答えなさい。

- (1) 認知症患者について説明したつぎの文の空欄部に入る語句を、本文中からそれぞれ五字で抜き出して答えなさい(ただし、句読点・符号がある場合は一字に数えること)。

認知症患者が現在の自分を ① と取り違えるのは、② の記憶がないからである。

- (2) 筆者の祖母の説明として最も適切なものをつぎの中から選び、記号で答えなさい。

ア 家族を冗談のように叱る様子が、「ドッキリ」番組の明るさと共通していたが、叱る内容自体は大人としてそれなりに整然としていた。

イ 自分の臨終より将来のことに言及した点が、普通の認知症とは違っていたが、同じ発言を幾度も行うなどその言動には一貫性があった。

ウ 自身を弔う火葬場に実際に行くなど、その行動には間違いが多かったが、筆者とは違い誤りを正すためのしおりを所有していなかった。

エ いま聞いているページの開かれ方が弱い点では、筆者と共通していたが、自分を未成年だと考えるなど典型的な認知症の特徴があった。

問六 空欄部(Ⅰ)に入る最も適切なものをつぎの中から選び、記号で答えなさい。

ア 象徴 イ 記憶 ウ 心象 エ 事例 オ 疑念

問七 空欄部（Ⅱ）に入る最も適切なものをつぎの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 現在ではなく未来
- イ 過去ではなく未来
- ウ 過去ではなく現在
- エ 未来ではなく現在
- オ 未来ではなく過去

問八 傍線部d「速度というより短さである」の説明として最も適切なものをつぎの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 加齢とともに、人々は時間の過ぎる速さを実感するというが、むしろそれは時間の短さの実感として捉えるべきだということ。
- イ 加齢とともに、人々の人生を通過する「今」の速度が徐々に増していき、結果的に時間を短く実感するようになるということ。
- ウ 加齢とともに、人々が日常的に実感してきた時間の過ぎる速さが、人によつては短さとして感じられるようになるということ。
- エ 加齢とともに、人々の時間的な足場がどんどんボンヤリしていき、時間の過ぎていく速さを短さとして取り違えるということ。

問九 傍線部 e 「問題」について、つぎの (1)・(2) の問いに答えなさい。

(1) この「問題」に対する本文の説明としてふさわしくないものをつぎの中から選び、記号で答えなさい。

ア 「時間の過ぎるのがはやい」は素朴に考えれば「早い」よりも「速い」と書かれるべきだが、漢字の意味を考えると、どちらが正しいのか分からなくなる。

イ 基準となる時間より前であることを表す場合に「早い」という表記を用いるのだから、時間が過ぎるのを「早い」と漢字で書き表すのは奇妙なことである。

ウ 「一分間」や「一時間」は、特定の時間における「時間の変化の量」を示したもののだから、「速い」や「遅い」といった認識はありえないことである。

エ 河の流れや、一定の時間に流れる水の量のように、ある特定の時間に何らかの運動や変化がすばやく起こるときに、人々は速度というものを認識する。

(2) 「早い」という表記が出版物で優勢である理由を筆者はどのように考えているか、それを示す段落を本文中から抜き出し、はじめの八字を答えなさい (ただし、句読点・符号がある場合は一字に数えること)。

問十 空欄部 (Ⅲ)・(Ⅳ) に入る語句の組み合わせとして最も適切なものをつぎの中から選び、記号で答えなさい。

- | | | | | |
|---|---|------|---|-------|
| ア | Ⅲ | 歩くのが | Ⅳ | 泳ぐのが |
| イ | Ⅲ | 行くのが | Ⅳ | 笑うのが |
| ウ | Ⅲ | 怒るのが | Ⅳ | 着くのが |
| エ | Ⅲ | 走るのが | Ⅳ | 起きるのが |
| オ | Ⅲ | 憚るのが | Ⅳ | 宣うのが |

問十一 空欄部（V）に入る語句として最も適切なものをつぎの中から選び、記号で答えなさい。

ア 比喩 イ 誇張 ウ 対比 エ 逆説 オ 反復

問十二 傍線部f「こうした経験」の説明として最も適切なものをつぎの中から選び、記号で答えなさい。

ア 自分の心身の変化速度は認識できないのに、時間の流れる速度は見えるという経験。

イ 自分の心身の変化速度と連動して、時間そのものの速さが高速で流れるという経験。

ウ 自分の心身の変化速度は一定なのに、自分以外の事物の速度が変化するという経験。

エ 自分の心身の変化速度は計測できないのに、目の前の世界は倍速で動くという経験。

問十三 傍線部g「その「二倍」という表現は、明確な意味をもちや失っている」について、このように言える理由として最も適切なものをつぎの中から選び、記号で答えなさい。

ア 時間の速度が二倍で流れ出しても、倍速で動いている外界の様子を直接観察しなければ、決して時間の変化に気づかないから。

イ 瞬きをする間に草木や太陽等の周囲のあらゆる対象が倍速で変化するなどということを、人々は経験することができないから。

ウ 「二倍」という語句を用いて世界の変化を表現したとしても、いったい何を使って何を計っているのが意味不明であるから。

エ あらゆる事物の変化が倍速になっても、そこに自身の心身も含まれていれば、結局は何も起こっていないのと同じであるから。

問十四

本文の内容の説明として適切なものをつぎの中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 人々は、しばしば目の前の現実と関わりのない思考に時間を費やし、人生全体をどこまで生きたかもボンヤリしている場合がある。筆者の「今」というつぶやきは、目の前に「今」という現実があることを自覚し、一体どの時点が「今」なのかを意識する行為である。

イ 人々は、たとえ認知症ではなくても、自分がいつの時期の自分かわからなくなる場合があり、その誤りを正すしおりを持つているとも限らない。「今」というしおりを挟むことで、時間的な足場を明確にすることができるとは、結局人生とは虚構や冗談のようなものである。

ウ 人々は、何らかの運動がすばやく起こることを「速い」と表すが、「時間の過ぎるのがはやい」という表現は出版物では「早い」が優勢である。歳とともに感じる時間の短さや世界の変化等、一種の速度が感じられる現象もあるが、時間そのものの速度とは関係がない。

エ 人々は、多くの時間をマインド・ワンダリングに費やしているので、自分がいつの時期の自分かが分からなくなる場合がある。「今」とつぶやくことで、人々は過去や未来・空想への心のさまよいから呼び覚まされ、「今」がどの時点を通しているのかを確認できる。

オ 人々は、時間が流れていく速度を河の流れのように見ることはできないが、目の前にある草木や太陽の運動を通じて、本来は認識できないはずの時間の速度を感じている。こうした経験は、自身の変化速度とその他の事物の変化速度の比率が同じときにこそ体感できる。

問十五

昭和期の文芸批評家・小林秀雄は、ドイツ生まれの物理学者・アイシュタインやフランスの哲学者・ベルクソンに影響を受け、時間の連続性や相対性に関心を持っていたことで知られる。小林秀雄の文章をつぎの中から選び、記号で答えなさい。

ア 小説神髓 イ 現代日本の開化 ウ 学問のすゝめ エ 無常といふ事
オ 歌よみに与ふる書

つぎの文章を読んで、あとの問いに答えなさい（ただし、設問の都合上変更した箇所がある）。

皆さんは、雑草を育てたことがありますか？

雑草なら庭にいくらでも生えている……と思うかもしれませんが、そうではありません。実際に、種を播いて、水をやって、育てるのです。

雑草は勝手に生えてくるものであって、雑草を育てるなんておかしいですね。

私は雑草の研究をしています。【a】、研究材料として雑草を育てることがあります。

雑草は放っておけば育つから、雑草を育てるのは簡単だ、と思うかもしれませんが。ところが、それは大間違いです。雑草を育てるのは、じつはなかなか難しいのです。

雑草を育てることが難しい理由は、私たちの思うようにいかないからです。

何しろ、種を播いても芽が出てきません。

野菜や花の種であれば、種を播いて水をやり、何日か待っていれば芽が出てきます。ところが、雑草は違います。種を播いて水をやっても、いくら待っても芽が出てこないことがあるのです。

野菜や花の種は、人間が発芽に適していると考えた時期をあらかじめ想定して、改良されています。そのため、野菜や花の種は人間のいうとおりに芽が出るのです。一方、雑草は芽を出す時期は自分で決めます。人間のいうとおりには、ならないのです。

また、野菜や花の種であれば、① イッセイに芽を出してきます。ところが、雑草は芽が出たとしても時期がバラバラです。早く芽を出すものがあるかと思えば、遅れて芽を出すものもあります。忘れた頃に芽を出してくるものもあれば、それでも芽を出さずに眠り続けているものもあります。やっとな芽を出しても、足並みが揃っていません。②

早く芽を出すせつかちもいれば、なかなか芽を出さないのんびり屋もあります。このバラバラな性格は、人間の世界では「個性」と呼ばれるものかもしれませんが。

雑草はとても「個性」が豊かです。そういえば、聞こえはいいですが、結局バラバラで扱いにくい存在です。そして、個性ある

雑草たちは育てにくい存在でもあるのです。

それにしても、どうして、雑草は芽を出す時期がバラバラなのでしょうか。

植物にとっては、早く芽を出したほうが成長するためには有利な気もするののに、どうして雑草には、ゆっくりと芽を出すような性格のものがあるのでしょうか？

皆さんは、「オナモミ」という雑草を知っていますか。

トゲトゲした実が服にくっつくので「くっつき虫」という別名もあります。子どもの頃に、実を投げ合って遊んだ人もいるかもしれません。

オナモミの実を知っていても、この実の中を見たことのある人は少ないのではないのでしょうか。

オナモミの実の中には、やや長い種子とやや短い種子の二つの種子が入っています。

二つの種子のうち、長い種子はすぐに芽を出すせつかち屋さんです。一方の短い種子は、なかなか芽を出さないのんびり屋さんです。

オナモミの実は、性格の異なる二つの種子を持っているのです。

それでは、このせつかち屋の種子とのんびり屋の種子は、どちらがより優れているのでしょうか。

そんなこと、わかりません。

早く芽を出したほうが良いのか、遅く芽を出したほうが良いのかは、場合によって変わります。

「A」というとおり、早く芽を出したほうが良い場合もあります。しかし、すぐに芽を出しても、そのときの環境がオナモミの生育に適しているとは限りません。「急^キいては事をし損じる」というとおり、B 芽を出したほうが良い場合もあります。だから、オナモミは性格の異なる二つの種子を用意しているのです。

雑草の種子の中に早く芽を出すものがあつたり、なかなか芽を出さないものがあつたりするのも、同じ理由です。

早いほうがよいのか、遅いほうがよいのか、比べることに何の意味ありません。オナモミにとっては、どちらもあることが大切なのです。

芽を出すことが早かったり遅かったりすることは、雑草にとっては、優劣ではありません。雑草にとって、それは個性なのです。しかし、早く芽を出すものがあつたり、遅く芽を出すものがあつたりすると、いろいろと不都合もありそうです。芽を出す時期は揃っているほうが良いような気がします。

Ⅲ バラバラな個性って本当に必要なのでしょうか？

バラバラな性質のことを「遺伝的多様性」といいます。

個性とは「遺伝的多様性」のことです。多様性とは「バラバラ」なことです。

しかし、どうしてバラバラであることが良いのでしょうか。

皆さんは、学校で答えのある問題を解いています。問題には正解があり、それ以外は間違いです。

ところが自然界には、答えのないことのほうが多いのです。

たとえば、先に紹介したオナモミに代表されるように、雑草にとっては、早く芽を出したほうがいいのか、遅く芽を出したほうがいいのか、答えはありません。

早いほうがいいときがあるかもしれませんが、じつくりと芽を出したほうがいいかもしれません。環境が変われば、どちらが良いかは変わります。どちらが良いという答えがないのですから、「どちらもある」というのが、雑草にとっては正しい答えになります。

だから、雑草はバラバラでありたがるのです。どちらが、優れているとか、どちらが劣っているという優劣はありません。

【b】、バラバラであることが強みです。

そして、すべての生物は「遺伝的多様性」を持っているのです。

じつは人間の世界も、答えがあるようで、ないことのほうが多いのです。

本当は何が正しくて、何が優れているかなんてわからないのです。「もつと早くやりなさい」とスピードを評価してみたかと思うと、「もつとテイネイにやりなさい」とゆっくりやることを褒めだしたりします。

人間の大人たちは答えを知っているようなフリをしています。そして、優劣をつけてわかったようなフリをして、「これは良い」

とか、「それはダメだ」^⑥と言っています。

しかし、何が優れているかなんて、本当は知りません。

いや、本当は、どれが優れているということはないのです。

それを知っているからオナモミは、二つの種子を持っているのです。

(稲垣栄洋『はずれ者が進化をつくる』による)

問一 波線部①～⑥の漢字の読みをひらがなに、カタカナを漢字に直して答えなさい。

問二 空欄部【a】【b】に入る語として最も適切なものをつぎの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | | | | |
|---|---|------|---|------|---|------|---|------|
| a | ア | そのため | イ | なぜなら | ウ | すなわち | エ | あるいは |
| b | ア | とりわけ | イ | あたかも | ウ | 決して | エ | むしろ |

問三 空欄部 A に入ることわざを四字で答えなさい。

問四 空欄部 B に入る語として最も適切なものを本文中から二字で抜き出して答えなさい。

問五 傍線部 I 「雑草を育てるのは、じつはなかなか難しい」について、その理由の説明として最も適切なものを本文中から十字で抜き出して、解答欄に合うように答えなさい(ただし、句読点・符号がある場合は一字に数えること)。

問六 傍線部Ⅱ「人間のいうとおりには、ならないのです」について、その理由を説明したものとして最も適切なものをつぎの中

から選び、記号で答えなさい。

ア 最適な発芽時期を人間の側の正解によって決められた野菜や花に対して、野生の雑草にとつての発芽時期の正解は人間が用意した土壌環境に左右されてしまうから。

イ 最適な発芽時期を人間の側の正解によって決められた野菜や花に対して、野生の雑草は人間の側の都合に関係なく周囲の環境の中に正解を模索して発芽するから。

ウ 野生の雑草にとつては、正解がないからこそ遺伝的に準備された正解ではあるが、その正解には不適切な時期にすべて発芽して全滅してしまうことも含まれているから。

エ 野生の雑草にとつては、正解がないからこそ遺伝的に準備された正解ではあるが、栽培となると雑草にとつての適切な自然環境の再現が技術的に困難になるから。

問七 傍線部Ⅲ「バラバラな個性つて本当に必要なのでしょうか」という問いに対する筆者の考えとして最も適切なものをつぎの中

から選び、記号で答えなさい。

ア 自然界には優劣のようなものはないとされるが、実は複数の体内時計を持つ方が良いことが多い。

イ 芽を出す時期は揃っている方が良いのであるから、それを阻害するような個性は不要である。

ウ 発芽時期の無作為性は、予め遺伝によって決定されていることで、個性とは無関係なものである。

エ 自然界には答えないことのほうが多いため、複数の手立てを持っている方が強みになる。

問八

授業で本文を読んだ後で、二重傍線部「すべての生物は「遺伝的多様性」を持っているのです」について考察することになった。教師からは次の《資料》が配布された。これを読んで、つぎの(1)・(2)の問いに答えなさい。

《資料》

動物の行動を支配する本能と違って、人工的に作られた学校教育では、子ども一人ひとりのカラを破るタイミングをうまく知ることができないのです。自然界では、カラを破るタイミングはあらかじめ個体に組み込まれていますが、人間社会ではこれが難しい。私たちがカラを破ることに苦勞したり、失敗したりするのはこのせいです。

学校の授業を思い出してください。例えば1学級30人ぐらゐの生徒がいるとして、皆が皆、授業のペースに合っているわけではありません。仮に半分ぐらゐの生徒が先生のペースに当てはまるとしても、4分の1の生徒は授業が簡単すぎると感じ、残りの4分の1の生徒は授業にまったく付いていけなかったりするではありませんか。

学び手の成長や希望、願望、悩みなどおかまいなしに、授業は進みます。学校で行われる多くのことは、多数の人のためのもので、学ぶ人一人ひとりの寸法には合っていないものです。乱暴なたとえですが、バラにはバラの育ち方があり、桜には桜の育ち方があるのに、Zのが学校というところなのかもしれません。

だから、皆さんが「個々に」カラを破る必要が出てきます。ところが残念なことに、上手にカラを破る方法やタイミングは本人にはもちろん、^{IV}親も学校の先生にもなかなかわからないのです。

(宮武久佳『自分を変えたい』による)

- (1) 空欄部 Z に入る最も適切なものをつぎの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 同一の生育期間で切り上げて出荷する イ 全員を高価な花に育て上げようとする
ウ 水や肥料を同じように与えようとする エ 画一的な規格から外れる個体を評価しない

(2) 傍線部Ⅳ「親も学校の先生にもなかなかわからない」について、ここから考えられる、本文と《資料》で共通する考えとして最も適切なものをつぎの中から選び、記号で答えなさい。

ア 何が正解で何が優等なのかわからないからこそ遺伝的多様性を保持する自然界に対し、人工的な学校教育では何が正解かがわからないことは同じくしつつも、子どもたちの多様な成長の在り方に対応しきれていない。

イ 何が正解で何が優等なのかわからないからこそ遺伝的多様性を保持する自然界に対し、人工的な学校教育では正解と不正解の基準を明確にしようとするあまり、子どもたちの多様な成長の在り方に対応しきれていない。

ウ すべての生物が遺伝的に多様であるにもかかわらず、自然界の雑草が複数の発芽手段を持つことに収斂したように、人工的な学校教育もまた複数の選択肢を持つという唯一の正解に帰結していった。

エ すべての生物は遺伝的に多様なものだから、たとえ人工的な学校教育であっても本来的な多様性を重視して、従来の全国で画一化されている評価方法を廃止して地域別の評価方法へと変更するべきである。

つぎの文章は、鴨長明『発心集』の一節であり、八幡別当の頼清と、その遠い親戚である永秀法師がやりとりする場面である。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

*¹
八幡別当頼清が遠流にて、永秀法師といふ者ありけり。家貧しくて、心好けりけり。夜昼笛を吹くよりほかのことなし。かしがましさにたへぬ隣り家、やうやう立ち去りて、後には人もなくなりけれど、W いたます。さこそ貧しけれど、

落ちぶれたる振るまひなどはせざりければ、さすがに人いやしむべきことなし。

頼清聞き、あはれみて、使ひやりて、「などかは何事ものたまはせぬ。かやうにはべれば、① さらぬ人だに、ことにふれて、さのみこそ申し承ることにてはべれ。うとくおぼすべからず。便りあらんことは、ははか 憚らずのたまはせよ」といはせたりければ、「返す

返す、かしこまりはべり。年ごろも X 申す ばやと思ひながら、身のあやしさに、かつは恐れ、かつは憚りて、まかり過ぎはべるなり。深く望み申すべきことはべり。⁽²⁾ すみやかに参りて申しはべるべし」といふ。

「何事にか。よしなき情けをかけて、うるさきことやいひかけられん」と思へど、「かの身のほどには、いかばかりのことかあらん」と思ひあなづりて過すほどに、ある片夕暮れに出で来たれり。すなはち出で合ひて、「何事に」などいふ。⁽¹⁾ 「あさからぬ所望はべるを、思ひ給へてまかり過ぎはべりしほどに、^f一日の仰せをよろこびて、さうなく参りてはべる」といふ。⁽³⁾ 「疑ひなく、所知など望むべきなめり」と思ひて、これを尋ねれば、「筑紫に御領多くはべれば、^{*2}漢竹の笛の殊よろしくはべらん、一つ召して給はらん。これ、身に取立て極まれる望みにてはべれど、あやしの身には得がたき物にて、⁽²⁾年ごろえまうけはべらず」といふ。

思ひのほか、いとあはれに覚えて、「いといと安きことにこそ。⁽³⁾速やかに尋ねて、⁽⁴⁾奉るべし。そのほか、御用ならんことははべらずや。月日を送り給ふらんことも、心にくからずこそはべるに、さやうのことも、などかは承らざらん」といへば、「御志はかしこまりはべり。されど、それは事欠けはべらず。二、三月にかく帷^{かたびら}一つまうければ、十月まではさらに望む所なし。また、朝夕のことは、おのづからあるにまかせつつ、とてもかくても過ぎはべり」といふ。

「げにすきものにこそ」と、あはれにありがたく覚えて、笛いそぎ尋ねつつ送りけり。また、さこそいへど、月ごとの用意など、まめやかなることども、あはれみ沙汰^{さた}しければ、それがあるかぎり、八幡の衆人^{しゅうじん}呼び集めて、これに酒まうけて、ひぐらし樂をす。失^うすればまた、ただ一人笛ふきて、明かし暮らしけり。後には、笛の功積もりて、並びなき上手になりけり。

かやうならん心は、何につけてかは深き罪もはべらん。

*1 八幡別当……石清水八幡宮の長官

*2 筑紫……九州地方

*3 漢竹……竹の一種

問一 波線部 a 「に」・ b 「ぬ」・ c 「せ」・ d 「ん」・ f 「し」の文法的意味をつぎの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい（ただし、同じ記号は二度以上使用しないこと）。

ア 推量 イ 婉曲 ウ 意志 エ 完了 オ 打消 カ 使役 キ 断定 ク 過去

問二 波線部 e 「給へ」の文法的説明として正しいものをつぎの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 尊敬の本動詞「給ふ」の已然形

イ 尊敬の補助動詞「給ふ」の已然形

ウ 謙譲の本動詞「給ふ」の連用形

エ 謙譲の補助動詞「給ふ」の連用形

問三 波線部 g 「な」の文法的説明として正しいものをつぎの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「な」は断定の助動詞「なり」の連体形「なる」の撥音便化した形「なん」の撥音「ん」が表記されない形である。

イ 「な」は断定の助動詞「なり」の終止形「なり」の撥音便化した形「なん」の撥音「ん」が表記されない形である。

ウ 「な」は伝聞の助動詞「なり」の連体形「なる」の撥音便化した形「なん」の撥音「ん」が表記されない形である。

エ 「な」は伝聞の助動詞「なり」の終止形「なり」の撥音便化した形「なん」の撥音「ん」が表記されない形である。

問四 波線部 h 「の」の文法的意味を、つぎの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 主格（……が）

イ 連体修飾格（……の）

ウ 同格（……で）

エ 比喩（……のように）

問五 空欄部 W に入る最も適切な語をつぎの中から選び、記号で答えなさい。

ア よも イ さらに ウ ゆめ エ な

問六 空欄部 X 申す を適切な形に活用させて答えなさい。

問七 点線部①「はべれ」②「はべり」③「参り」④「奉る」は、それぞれ誰に対する敬意か。つぎの中からそれぞれ選び、記号

で答えなさい（ただし、同じ記号を何度使用してもよい）。

ア 頼清 イ 永秀法師 ウ 楽人 エ 読み手

問八 二重空欄部 かしがましさ の本文中の意味として、最も適切なものをつぎの中から選び、記号で答えなさい。

ア やかましさ イ 見苦しさ ウ つまらなさ エ ものたりなさ

問九 傍線部(1)「あさからぬ所望」とあるが、何を「所望」しているのか。本文より漢字一字で抜き出して答えなさい。

問十 傍線部(2)「年ごろえまうけはべらず」を現代語訳して答えなさい。

問十一 傍線部(3)「さやうのこと」の説明として、最も適切なものをつぎの中から選び、記号で答えなさい。

ア 日常生活に必要な物品 イ 家族を養うのに必要な領地
ウ 春から夏まで着る衣服 エ 朝夕にとるべき食事

問十二 傍線部(4)「ひぐらし樂をす」を例にならって品詞分解しなさい。

(例) いとをかし ↓ いと / をかし

問十三 本文中に書かれた内容の説明として適切なものをつぎの中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 永秀法師は、身分が低く、家が貧しかったために、彼を軽んじる人がいた。
イ 永秀法師は、頼清に声を掛けられるまで、遠慮して頼みごとをしなかった。
ウ 永秀法師は、よく八幡の樂人を呼び集めて、酒食だけにふけていた。
エ 頼清は、永秀法師の思いがけない過大な頼みごとをひどく恐れていた。
オ 頼清は、永秀法師が恋愛の情趣をよく理解した、粹な人物であると感じた。
カ 作者の鴨長明は、永秀法師のような人物は、深い罪を犯さないと考えた。

問十四 『発心集』は鎌倉時代初期に書かれた作品である。『発心集』以前に書かれた作品として、適切でないものをつぎの中から一

つ選び、記号で答えなさい。

- ア 万葉集 イ 日本霊異記 ウ 十六夜日記 エ 宇津保物語

2026年度入学者選抜（B日程・2月6日）【60分】

国語試験問題

「現代の国語」、「言語文化」（小説・漢文を除く）

学芸学部…日本語日本文学科・国際コミュニケーション学科

人間社会学部…子ども教育学科・メディア情報学科・生活デザイン学科
社会マネジメント学科・人間心理学科

地域クリエーション学科

一 つぎの文章は、周司あきら『男性学入門』の一節である。これを読んであとの問いに答えなさい（ただし、設問の都合上変更した箇所がある）。

徴兵制とは、一定の年齢に達した国民に、一定の期間、兵役に服する義務を課す制度のことです。志願制とは異なり、強制です。第二次世界大戦が終わるまでは、日本でも徴兵制が実施されていました。（中略）対象は男性だけでした。

日本の軍事史に詳しい荒川章二によると、徴兵制は、「男性という性に限定された範囲内である種の『平等化』^①を生んだと言えます。というのも、少し前まで、戦闘義務は武士という身分に課されていました。しかしその時代からイッペンし、男性たちはその性別と年齢によって、軍隊に組み込まれていくことになりました。身分よりも、性別のもつ重みが大きくなったのです。（中略）徴兵検査で選抜されて現役兵になった者には、統一感のある軍服が支給されました。和服から軍服に袖を通した男性は、西欧に近づいたという「文明的優越感」や「所属部隊への帰属意識」^②を育み、次第に「男たちの国民意識形成」が促進されていくことになりました。（中略）

兵士をまとめあげる重大な役を二ナつたのが、天皇でした。（中略）歴史学者の大濱徹也が著した『天皇の軍隊』では、天皇の

影響力がコクメイに描かれています。日本の軍隊のトップには天皇がいて、すべては天皇のために行われたのです。(中略)

兵士となった男性は、徹底的に自主性を奪われて、軍が説く命令と服従に従う「皇軍兵士」へと育成されていきました。

新たに軍隊に入った新兵は、天皇の名による厳しい「愛の鞭」だと言いつ聞かされて、古参兵から理不^⑤ B な私的制裁を受けることとなります。(中略) それに逆らうことは許されません。そうやって、服従することを強いられました。

でも、なぜ兵士に対して、過剰なまでの制裁や管理体制が必要とされたのでしょうか。

逆説的かもしれませんが、その理由は、一人ひとりの男性たちがもともと兵士に向けた人間でなかったからだ、というほかありません。兵士になりたくなかった者も含めて、心身を殺戮兵器たる「皇軍兵士」に作り替えるために、彼らへの制裁や管理体制が必要とされたのです。

とりわけ日本の軍隊は、体力の観点では西洋人には敵わないと理解していたようで、その分を精神力や運動能力によって補おうとしていました。「精神力でどうにかなる」という根性論は、現代にも通じるものがありそうです。

そして彼らは、自分自身の痛みを目を瞑り、他者を傷つけることさえ厭わない、戦うための兵士に作り替えられていきました。ここまで、青年期を含む成人男性を念頭に話を進めてきました。

しかし、将来、男性に立派な兵士となってもらうには、もつと若いときからそう仕向けておくべきなのでしょう。

そこで大人たちは、いったい少年に何を期待したのでしょうか。

ジェンダー史を専門とする内田雅克は、(中略)「ウィークネス・フォビア」(弱者嫌悪)という造語を使って、少年の状況を説明しています。

ウィークネス・フォビアとは、「『弱』に対する嫌悪と、『弱』と判定されてはならないという脅迫観念」のことです。

戦争・軍事化に際して求められた男らしさには、まさしくウィークネス・フォビアが隠されていました。

西洋に負けるな。日本男児は強い。(中略) 男性同性愛は「女々しい」。男とは弱い女性を助けるもの。戦地の兄に続け……。

そのように、当時の雑誌には、「正しい男性」像と「非男」像がたくさん残されています。一方が望ましい男性の姿だとすれば、他方に配置されたのは、男らしくない男性や、少女や「非日本人」など、弱さの象徴とみなされる人たちでした。

弱さといっても、単なる腕力の話をしているわけではありません。弱さは、(中略) 男性同性愛者に対する蔑視とも関連しているのです。「日本男児」は決してそうなたてはいけないし、そう見えてもいけない、という脅迫的なメッセージを雑誌は発しています。

X、「あいつは女みたいなやつだ!」と言われることは、日本男児からすれば恐怖でした。男らしさ(＝正しさ)から逸脱したとみなされないよう、日本男児はウィークネス・フォビアを胸に抱えて、男らしく、正しく、^⑥ ジュウジュンに、日々ふるまいました。

ところが、理想の男性像に当てはまらず、周囲から見下される男性もいました。

その代表が、男性同性愛者や、そうかもしれないとみなされた男性たちです。「男を愛するなんて、精神や身体が女っぽいからだ」と、彼らの「女々しさ」は敬遠されました。

同性愛者に対する嫌悪や恐怖を「ホモフォビア」と呼びますが、戦時中はホモフォビアが如実に表れていました。^⑦

Y、奇妙なことも起きていました。

男同士の親密な関係が見られたのも、同じく戦時中のことだったのです。死ぬかもしれない極限状態で交わされる男性同士の連帯は、きわめて性的(ホモセクシユアル)であつたとしても、性的ではない男同士の絆(ホモソーシャル)として、賛美されました。

一方で男性同性愛者は差別されたというのに、他方で男同士の親密な関係があつたなんて、そこだけ聞くと、なんだか^{IV} Zしています。

ドイツ近現代史を専門とする星乃治彦は、ドイツにおけるクイア・ヒストリー(規範に抗う性的マイノリティたちの歴史)を記述した『男たちの帝国 ヴィルヘルム2世からナチスへ』において、社会が同性愛的な関係をどう扱ってきたのか、次のように述べます。

人間の中における同性愛を否定できないとすれば、良い同性愛と悪い同性愛を分けるしかない。良い同性愛はホモソーシャルの関係性に代表される男の形をした男同士の友情、戦友であり、悪い同性愛とは「なよなよした」「女の真似をする」同

性愛である。その選別は主観的であり、ご都合主義である。^E

星乃が指摘する通り、実際には「ホモソーシャル的な良い同性愛と、「なよなよした」「女の真似をする」悪い同性愛を、はっきりと二分することはできません。

それでも、戦時中の日本には、両者を峻別する理屈がありました。^⑧ ^Vそれが、ウィークネス・フォビアでした。たとえその理屈が「主観的」で「ご都合主義」であったとしても、ウィークネス・フォビアが「良い同性愛」と「悪い同性愛」を分ける理由になっていたのです。再び内田を引用します。

戦時に死の香りを漂わせ、その姿を現した「兄と弟」というホモソーシャルな連帯は同性への強い思慕を軸として、「弱」を嫌悪・排除し、^{ひくま}逞しく美しく潔いものとして差異化されたのだ。

ここという「兄と弟」は、血のつながった兄弟だけを意味しているわけではありません。「弟」に該当する少年たちが焦がれた「兄」とは、地域社会の男性、先輩や若い教師、親戚なども含め、広く「日本男児」であり「皇軍兵士」である、年長の日本人男性を指します。^{VI} 弟は、兄の逞しい肉体へ、憧憬の視線を送るのです。

問一 傍線部①～⑧の漢字の読みをひらがなに、カタカナを漢字に直して答えなさい。

問二 傍線部A「義務」の対義語を漢字二字で答えなさい。

問三 空欄部 B に漢字一字を入れて語句を完成させるのに最も適切なものをつぎの中から選び、記号で答えなさい。

ア 尋 イ 腎 ウ 迅 エ 尽

問四 傍線部 C 「逆説」とあるが、「逆説」を表すものをつぎの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ログス イ バトス ウ ヒエラルキー エ パラドックス

問五 傍線部 D 「マイノリティ」を漢字三字の日本語で表すとき、空欄に入る最も適切な漢字二字を答えなさい。

者

問六 傍線部 E 「ご都合主義」の意味として最も適切なものをつぎの中から選び、記号で答えなさい。

ア 強い信念を持って行動し、どのような事態でも態度を変えないこと。

イ 自分の言動や主張に一貫性を持たず、成り行きによって態度を変えること。

ウ 自分の信念を持たず、常に支配的な勢力に迎合して自己保身すること。

エ 全ての事柄に対して大げさに考え、些細なことにも文句を言うこと。

問七 空欄部 X ・ Y に入れるのに最も適切なものをつぎの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい（ただし、同じ

記号は二度は使用しないこと）。

ア もしかして イ では ウ なので エ その一方で

問八 空欄部 Z に入る最も適切な語句をつぎの中から選び、記号で答えなさい。

ア 合致 イ 矛盾 ウ 拒否 エ 止揚

問九

傍線部Ⅰ「戦うための兵士に作り替えられました」とあるが、本文ではどのように「作り替えられ」たと説明として
いるか。最も適切なものをつぎの中から選び、記号で答えなさい。

ア 男性同性愛を禁止し、天皇とのみ親密な関係があるという幻想をいだかせることで、男たちを国家と一体化した愛国
心溢れる「皇軍兵士」として作り替えていった。

イ 洋式の軍服を着ることで西欧に近づいたという文明的優越感を持った男たちを、平等な集団の中に入れることで「皇
軍兵士」として作り替えていった。

ウ 男たちに天皇直属の武力である誇りを持たせ、所属部隊への帰属意識を国家への帰属意識へと変えさせ、精神論で苦
難を乗り越切る「皇軍兵士」へと作り替えていった。

エ 男たちに国民意識形成をさせるとともに、天皇の名のもと自主性を奪い、暴力などを通じて服従させることで「皇軍
兵士」へと作り替えていった。

問十

傍線部Ⅱ「男性同性愛は「女々しい」とあるが、男性同性愛者が「女々しい」と表現されたのはなぜか。つぎの文の空欄
に入る語句を本文中より五字で抜き出して答えなさい（ただし、句読点や記号なども一字と数えること）。

当時、同性愛の男性は女性と同じく、の一つとみなされていたから。

問十一

傍線部Ⅲ「正しい男性」像と「非男」像とあるが、「正しい男性」「非男」にはカギカッコがつけられている。括弧を付けることにどのような意図が込められていると考えられるか。その説明として最も適切なものをつぎの中から選び、記号で答えなさい。

ア 一般的に用いられる専門用語であることを示し、それによって二項対立的な相反する語句を並べても、混乱が生じないようにしようと意図している。

イ 戦時中の日本という限定的な文脈の中の「常識」によって作られた価値観であることを表すための特殊な用語であることを示すことを意図している。

ウ 戦時中に実際に使用されていた語句の引用であることを明示し、当時の社会のあり方を読者にも理解してもらい、戦争中の価値観を読者と共有することを意図している。

エ 現代の人々が日常的に使用する言葉とは異質な、戦時中に使用されていた専門用語であることを明確にすることで、客観的な表現を可能にしようと意図している。

問十二

傍線部Ⅳ「男性同性愛者は差別された」とあるが、戦時中男性同性愛者が差別された原因はなにか。それを説明した一文を四十文字以上四十五字以内で本文中から抜き出し、最初と最後の五字を答えなさい（ただし、句読点や記号なども一字と数えること）。

問十三

傍線部V「それが、ウィークネス・フォビアでした」とあるが、その説明として最も適切なものをつぎの中から選び、記号で答えなさい。

ア ホモソーシャル的な関係と男性同性愛的な関係を明確に分けることが難しいため、女性的な「弱さ」を持ったものを、悪いものとして排除するようになったということ。

イ 男性同性愛にも国家にとってよいものと悪いものがあったのだが、その線引きは「弱さ」の有無や「弱さ」の強弱によってなされていたということ。

ウ 男性の中にもある「弱さ」がホモソーシャル的な関係を成立させることを証明し、「弱さ」にもまた賞賛すべき側面があることを主張したということ。

エ 「弱い」ものを努めて差別し排除することで「強い」男たちを作り上げ、同性愛的なものを徹底的になくしていくことに成功したということ。

問十四

傍線部VI「弟は、兄の逞しい肉体へ、憧憬の視線を送るのです」とあるが、「弟」が「兄」に憧れることでどのようなか。その説明として最も適切なものをつぎの中から選び、記号で答えなさい。

ア 強い「兄」に憧れることは、表面上はホモソーシャル的な結びつきを強化するが、その背後では前近代以来の男性同性愛的な関係を熱望するようになる。

イ 「弟」が自分の实力を知るために「兄」との力の差を見極めようとし、力が付いてきたら今度は力強い「兄」を乗り越えようとする。

ウ 「弟」は「実の兄」の肉体に憧れることで克己心を養い、「実の兄」と同じような肉体美を誇れるようになりたいと願い、自分の弱さを乗り越えようとする。

エ 擬似的な「兄」との肉体的な関係を求めるのではなく、理想の男性像である「兄」に憧れることで、「弟」も「日本男児」や「皇軍兵士」になろうとする。

次の文章 *a* は、本文のあとにあるものである。これを読んでつぎの (1)・(2)・(3) の問いに答えなさい。

文章 *a*

ホモソーシヤルな連帯は、「弱い男」扱いされた男性同性愛者たちとほとんど変わらない様相を呈しながらも、ウィークネス・フォビアを軸として、戦争を突き進むために欠かせない「強い男」の ① を成り立たせていました。

しかし、1945年8月。日本は戦争に敗れました。惨敗です。

「敗戦の傷跡は女性よりも男性に明らかに大きかった」。ジェンダー社会学を専門とする天野正子は、当時書かれた日記や記録からそう読み解きました。

P 性たちが、何があろうとこの瞬間を生きなければならないという生活の連続と、「大日本帝国」の最後の日であっても、立ち止まってはられないという戦中意識からの切り替えを経験していたとき、男性の多くが味わっていたのは、戦中意識と連続した、負けて生き恥をさらすより死んだ方がましという皇国精神に根づいたことが、当時の記録からうかがわれる。

② か、敗戦という衝撃の「けじめを立派につける」ために「形をつくる」という男らしさの事大主義であったことが、

それほどまでに、 Q 性と戦争の結びつきは強いものでした。

- (1) 空欄部 ① に入る二字の語句を「文章 *a*」から抜き出して答えなさい。

(2) 空欄部

P

 ・

Q

 に入る組み合わせとして最も適切なものをつぎの中から選び、記号で答えなさい。

- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ア | P | 男 | Q | 男 |
| イ | P | 男 | Q | 女 |
| ウ | P | 女 | Q | 男 |
| エ | P | 女 | Q | 女 |

(3) 空欄部

②

 に入る語句として最も適切なものをつぎの中から選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | | | |
|---|------|---|-------|---|-------|---|------|
| ア | 女の根性 | イ | 戦場の真実 | ウ | 戦場の暗闇 | エ | 男の美学 |
|---|------|---|-------|---|-------|---|------|

問十六 第二次世界大戦を描いた戦争文学の作者名と作品名の組み合わせとして正しいものをつぎの中から選び、記号で答えなさい。

- | | | | |
|---|----------|---|---------------|
| ア | 大岡昇平―野火 | イ | 安部公房―ヒロシマ・ノート |
| ウ | 村上春樹―空缶 | エ | 山川方夫―待ち伏せ |
| オ | 林京子―夏の葬列 | | |

つぎの文章は大塚美輪『読めば分かるは当たり前?』という本の冒頭である。この文章を読んで、あとの問いに答えなさい（ただし、設問の都合上変更した箇所がある）。

「日本人だから、日本語が読めるのは当たり前だ」

と言われると、たしかにそうかもしれないという気がしてきますね。国語や現代文の授業でわざわざ勉強しなくたって読めばわかるよ、という人もいるかもしれません。

ですが、「勉強しようと思って教科書を開いてみたけど、何を言ってるのか全然わからなかった」とか、「説明書を読んだのにやり方を間違えて失敗してしまった」という経験をした人もいるでしょう。国語が苦手だという人の中には、「読み取りの問題でどれが正解の選択肢なのか分からない」という人もいるかもしれません。こうしてみると、日本語でも読んで分からないことがたくさんありそうですね。

読んで分かるのは当たり前、読んで分からないことがたくさんある、一体どっちなのでしょう。

「読んで分かるのは当たり前」だという人の中には、「読んで分からないのは読解力^Aがないからだ」という人もいます。そう言われるとなるほど、という気持ちになりますね。【中略】

では、どうすれば読解力は身につけられるのでしょうか。「読解力」をキーワードにネット検索をしてみると、「読解力を伸ばすには」と題したウェブページをいくつも見つけることができます。こういうウェブページに書いてあることに従えば読解力がつくでしょうか。はじめに期待をへし折って恐縮ですが、そんなにすぐに「読解力」はつかない、ということとはつきりさせておかなければなりません。ウェブページのせいばかりではなく、この本を読んでもたぶんそんなに「読解力」は身につけません。ごめんなさい。

言い訳をする、そもそも「読解力」というまとめ方が雑すぎるのです。たとえば、「サッカーができる力」を「サッカー力」と名付けたとして、「このトレーニングをしたら一週間でサッカーが上手になります」と言われたら「そんなにすぐには無理でしょう」と思うはず。数学ができる力を「数学力」として、「この一冊で数学力が身につきます」と言われても同じように感

じるではありませんか？

先で述べたように、「読んでわかる力」を「読解力」と呼ぶのは、人間のある種の能力をたいへんぎつくりと大きくくくつたもので、「サッカー力」や「数学力」のようなものです。ですから、この本を一冊読んだだけでガラツと変わるようなものではないと思いませんか。がっかりされたかもしれませんが、「この塾に通えばすぐに」「このトレーニングをすればすぐに」読解力を身につけられますよ、という話は信じない方がよいでしょう。世の中、うまい話はそんなにいいのです。

では、読解力を身につけることはできないのか、ということでしょうかありません。

読解力は生まれつきのセンスであるとか、小さいうちに鍛えないとダメだという人もいますが、そんなことはありません。「読解力は〇〇歳までが勝負」「読解力は〇〇歳以降は伸びない」というような年齢制限を主張するのも基本的には誤りだということです。こちらは今から「読解力を身につけよう！」と考えている人にはロウホウです②。

読解力の獲得に年齢制限があるという主張には、読み聞かせや絵本などの幼少期の体験を重視するものが多いようです。幼少期に読み聞かせをすることや、絵本を読む経験はさまざまな意味で人間の能力や感情の豊かさを育みます。もちろん、言葉への興味や語彙の獲得にこれらの活動が有効でもあることが示されていますから、読解力を高める上でも良いことだと言えるでしょう。ですから、これらが必要ないとか意味がないというわけではありません。(a)、幼少期の読み聞かせや絵本を読む経験が「重要で良いものである」ということは「それがなければダメである」ということを意味するわけではありません。中学生・高校生になつてから、大学生になつてからも読解力は大きく成長します。大人になつてから読むのが好きになつたという人は私の周りにも大勢います。「自分^Dはもう手遅れだ」とあきらめてしまう必要はありません。

「もう自分は十分読解力がある」と満足している人もいるかもしれませんが、ちょっと待ってください。この年齢でこれが読めればもう読解力はコンプリート^{*1}、というような基準があるわけではない、というのも重要なことです。「自分は国語のテストが得意だから読解力がある、もう読解力は身につけているから、これから頑張らなくてもOK」と考えるのは間違いです。小学生が「ぼくはもう絵本は全部読めるから、読解力は十分」と言っていたら「いやいや、これから先、もっと難しい本、全然違うタイプの本を読むことになるよ」と教えてあげたくなりますね。同じことです。高校生のときに高校生向けの小説を読めることが、大学生に

なって教科書を読むことを約束してくれるわけではありません。読み手の知識や置かれた状況、これから身につけたい知識など、様々な要因で読む対象は変わっていきます。成長すればただけ、次に読みたい本、読むべき本が変わっていきます。ですから、ある時点で「十分な読解力がある」ということがゴールにトウタツしたことを意味するわけではないのです。読解力は、「はい、身につきました、終了」というものではなく、絶えず鍛えていかななくてはならないものだと言えるでしょう。

それでは「X」にどうすればよいのか、と考えようとすると、実は私たちは「読解力」がそもそも何なのかよく知らないということに気づきます。

「読解力がある」「読んでわかる」とはどういうことなのか。実はこの問いに十分答えられる人は少ないのではないかと思います。私はこれまで、読解力についてずいぶん多くの人とお話ししましたが、「読解力が大事！」と言っている大人の多くはなんとなく《c》と「読解力」というものをイメージしていて、それが大事だと言っているのです。人によってはずいぶん違う「読解力」をイメージしていることもあります。それぞれの人が思い浮かべる「読解力」のイメージは実は色々で、「わかる」とはどんな状態を指しているのかもバラバラだと言って良いように思います。

私たちは「読解力がある」という状態を目的地に設定しているけれども、それがどんな場所なのか、よく分かっていないのかもありません。もっと言うと、自分の「読解力」の現状や、どうすれば望んでいるような「読解力がある状態」にたどり着けるのか、その道筋も、実はよく分かっていないのではないのでしょうか。「なんかよくわからないけど、読解力を高めたいな」と思っている状態は、地図を持たずに知らない土地にいるような状態だと言えるのかもしれない。

ですから、私はこの本を「読解力を高めるための地図」にしたいと考えています。つまり、読むことや読解力について、目的地、現在地、目的地への道筋^Gをお示しするのがこの本の役目です。この本を読んですぐに読解力が向上するわけではないけれど、どんなふうになればよいのか、今自分はどういう状況か、どうすれば「読解力のある人」になれるのか、その地図を読んだ人ひとりひとりがエガければよいと考えています。

地図としてこの本がはじめにお示するのは読解力の「目的地」です。私たちはどんなふうになりたいのか、読解力があるってどういうことか、まずは目的地をみんなで確認しましょう。

目的地を理解したら、次は現在地を知らなくてはなりません。自分の読解力がどういう状態なのか、「私は読解力がない」というのはどういうことなのかを丁寧に考えてみましょう。自分の読解力を知るためには、心理学の研究知見が役に立ちます。「分からない」「読むのが難しい」というのはどういう状態なのか、

Y

に紐解いていきます。

目的地と現在地、(b)「読解力がある」とはどういうことか」また「読解力がない状態とは何ができない状態なのか」をハッキリさせたいのは、それが道筋を考えることにつながるからです。道筋がわかると、より良い練習ができます。スポーツでも勉強でも、何かを上手にできるようになるためには、「良い練習」が必要です。自分の弱点や改善のポイントを知らずにやみくもにやってもなかなか成果は上がりませんね。理想的なバッティングフォーム(目的地)、と自分のクセ(現在地)を意識せずに「素振り一〇〇〇回!」とやってみてもあまり効果はありません。現在地から目的地に進む道筋を考えて練習することが重要です。読解力も同じことです。目指す読解力の姿と自分の読解のクセやつまずきを知ること、自分の読解力を高めるためにもっとも良さそうな練習方法はなにかを選ぶようになることが重要です。

「自分で考えないとダメ?とにかくどうしたらいいかだけさっさと教えてよ」「別に読解力がなにかとか自分の読解力の現状とか、そのあたりはフワッとしているままでもいいじゃないか」と思う人もいるかもしれませんが。私のことを、「そもそも〇〇ってなんですか? ティギは?」^⑥と言いつつ面倒くさい人だと思っている人もいるかもしれません。私自身が面倒くさい人だということ自体は否定しませんが、自分の状況や目的地に応じて進む道を考えられるようになるほうが、この先ずっと役に立ちますし、楽しいです。ですから、この本では、いくつかの読解力を高めるポイントもお示ししますが、目的地と現在地をみなさん自身が把握して、自分で練習方法を編み出すことにも期待したいと思います。

*1 コンブリート……完成すること

問一 二重傍線部①～⑥の漢字の読みをひらがなに、カタカナを漢字に直して答えなさい。

問二 空欄部（ a ）・（ b ）に入る最も適切な語をつぎの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい（ただし、同じ記号は二度以上使用しないこと）。

ア さて イ しかし ウ それとも エ つまり オ なぜなら

問三 空欄部

X

 ・

Y

 に入る最も適切な語句をつぎの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい（ただし、同じ記号は二度以上使用しないこと）。

ア 間接的 イ 基礎的 ウ 具体的 エ 心理学的 オ 生理学的

問四 空欄部《 c 》に入るカタカナ表記の適切な擬態語を本文中から抜き出して答えなさい。

問五 傍線部 A 「そう言われると」の「そう」の表す内容として最も適切なものをつぎの中から選び、記号で答えなさい。

ア 日本語の文章が当たり前に読めるのは日本人だからである。

イ 日本語の文章が当たり前に読めても失敗してしまうことはある。

ウ 日本語の文章が分からないという意見も世の中にはたくさんある。

エ 日本語の文章が分からないのは読解力がないからである。

問六 傍線部B「まとめ方が雑すぎるのです」の「雑すぎる」の表す内容の説明として最も適切なものをつぎの中から選び、記号で答えなさい。

ア「雑」が「雑誌」の「雑」と同じ意味だと考えると、「雑すぎる」は「多様な内容を含みすぎている」という内容である。
イ「雑」が「雑費」の「雑」と同じ意味だと考えると、「雑すぎる」は「些末な内容を含みすぎている」という内容である。
ウ「雑」が「雑談」の「雑」と同じ意味だと考えると、「雑すぎる」は「気楽な内容を含みすぎている」という内容である。
エ「雑」が「雑音」の「雑」と同じ意味だと考えると、「雑すぎる」は「不快な内容を含みすぎている」という内容である。

問七 傍線部C「うまい話」に対する筆者の考えとして最も適切なものをつぎの中から選び、記号で答えなさい。

ア うまい話とは、手間暇かけずに短時間で成果が得られると教えてくれるものである。
イ うまい話とは、スポーツや学問などの極めて限られた世界にだけ存在するものである。
ウ うまい話とは、人間のある種の能力をたいへんざつくりと大きくくくつたものである。
エ うまい話とは、世の中にそれほどないので見つけた時にはただちに従うべきものである。

問八 傍線部D「自分はもう手遅れだ」というあきらめを誘発する考え方を表す二十字程度の部分を本文中から抜き出し、最初と最後の五字で答えなさい（ただし、句読点・符号がある場合は一字に数えること）。

問九 傍線部E「読み手の知識や置かれた状況、これから身につけたい知識など、様々な要因で読む対象は変わっていきます。」という状況が誘因となって生じる「読解力」に対する認識を次のようにまとめた場合、空欄部に入る語句をこれより後の本文中から十八字で抜き出し、最初と最後の五字で答えなさい（ただし、句読点・符号がある場合は一字に数えること）。

▽「読解力」とは、である。

問十 傍線部F「なんかよくわからないけど、読解力」を高めたいな」と思っている状態は、地図を持たずに知らない土地にい

るような状態だ」という状況を言い表した四字熟語として最も適切なものをつぎの中から選び、記号で答えなさい。

ア 暗中模索 イ 疑心暗鬼 ウ 無理難題 エ 傍若無人

問十一 傍線部G「道筋をお示しする」の「お示しする」と同じ種類に分類される敬語表現をつぎの中から選び、記号で答えなさい。

ア 見ます イ 見られる ウ 拝見する エ ご覧になる

問十二 本文の表現の説明として最も適切なものをつぎの中から選び、記号で答えなさい。

ア 会話文や口語的な表現、平易な表記を交えることで、読者が読みやすいように配慮している。

イ 「へし折って」「楽しい」などやや挑発的な表現を交えることで、読者の興味を喚起している。

ウ 「です」「ます」を多用して読者におもねり、学術的な内容を咀嚼して面白おかしく伝えている。

エ 読者が抽象的な内容を理解できるように、比喻やオノマトベなどの表現の使用を控えている。

問十三 本文の内容に合うものをつぎの中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 筆者は、「読解力」の説明を日本語で書いて読者に読んでもらっているのだ、日本語でも読んで分らないことがあるというのは幻想であると考えている。

イ 筆者は、「読解力」はすぐには身につかないという自説で読者をがっかりさせる理由を、自分自身が面倒臭い人間であることに起因すると表明している。

ウ 筆者は、幼少期の読み聞かせや絵本を読む経験が人間の能力や豊かな感情を育むという報告を踏まえて、「読解力」の早期教育の必要性を主張している。

エ 筆者は、「読解力」や「分かる」ということのイメージが人によってバラバラであるという実状を尊重したうえで、「読解力」を高めるための考え方を示している。

オ 筆者は、「読解力」を高める方法の要点を示すつもりであると語るとともに、読者自身が自分に適した方法を自ら選んだり編み出したりすることを期待している。

一一②

つぎの文章は、『とはずがたり』の一節であり、作者（後深草院二条）が鎌倉を旅している場面である。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

かくて、荏柄^{*1}、二階堂^{にかいだう}、大御堂^{おほみだう}などいふ所ども拝みつつ、大倉^{*2}の谷^{やつ}といふ所に、小町殿^{*3}とて將軍にさぶらふは、土御門^{*4}定実のゆかりなれば、文遣^aはしたりしかば、「いと思ひよらず」と言ひつつ、「わがもとへ」とてありしかども、
A なかなかむつかしくて、近きほどに宿を取りてはべりしかば、「便りなくや」などさまさま訪ひおこせたるに、道のほどの苦しきもしばいたはるほどに、善光寺^{*5}の先達^{よくだち}に頼みたる人、卯月^{うづき}の末つ方より大事に病み出だして、前後を知らず。
B あさましとも言ふば

かりなきほどに、すしおこたるにやと見ゆるほどに、わが身またうち臥しぬ。二人になりぬれば、人も、「いかなることにか」と言へども、「ことさらなることにてはなし。ならばぬ旅の苦しさに、持病の起こりたるなり」とて、医師などは申ししかども、今はといふほどなれば、心細さも言はむ方なし。

さほどなき病にだにも、風邪の氣、鼻垂りといへども、すこしもわづらはしく、二、三日にも過ぎぬれば、陰陽、医道の漏るるはなく、家に伝へたる宝、世に聞こえある名馬まで、靈社、靈仏にたてまつる、南嶺の橘、玄圃の梨、わがためにとのみこそ騒がれしに、病の床に臥して、あまた日数は積もれども、神にも祈らず、仏にも申さず、何を食ひ、何を用ゐるべき沙汰にも及ばで、ただうち臥したるままにて明かし暮らす有様、生を變へたる心地すれども、命は限りあるものなれば、水無月のころよりは心地もおこたりぬれども、なほ物参り思ひ立つほどの心地は

十五日の朝、小町殿もとより、「今日は都の放生会の日にてはべり。いかが思い出づる」と申したりしかば、

I 思ひ出づるかひこそ Y なし 石清水同じ流れの末もなき身は

返し、

II ただ頼め心の注連の引く方に神もあはれはさこそかくらめ

*1 荏柄、二階堂、大御堂……それぞれ鎌倉の荏柄天神、永福寺、勝長寿院を指す。

*2 大倉の谷……現在の鎌倉幕府跡を中心とする広域

*3 將軍……鎌倉幕府第七代將軍の惟康親王

*4 土御門定実……源定実。作者のまたいとこにあたる。

*5 善光寺……長野市にある寺

*6 陰陽、医道……陰陽師と医師

*7 南嶺の橘、玄圃の梨……ここでは珍しい果物の意

問一 二重傍線部 i「卯月」、ii「水無月」の読みを、ひらがな（現代仮名遣い）で答えなさい。

問二 二重傍線部 iii「八月」の月の異名を漢字二字で答えなさい。

問三 波線部 a「なれ」 b「しか」 c「ぬ」 d「ぬ」 e「らめ」の文法的意味をつぎの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい（ただし、同じ記号は二度以上使用しないこと）。

ア 過去	イ 断定	ウ 打消	エ 伝聞	オ 現在推量
カ 存続	キ 完了	ク 推定	ケ 婉曲	コ 過去推量

問四 空欄部

X

 す ・

Y

 なし を適切な形に活用させて答えなさい。

問五 点線部 ①「さぶらふ」②「申し」③「申さ」④「はべり」は、それぞれ誰に対する敬意か。つぎの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい（ただし、同じ記号を二度以上使用してもよい）。

ア 作者	イ 小町殿	ウ 將軍	エ 土御門定実	オ 善光寺の先達
カ 神仏	キ 読み手			

問六 二重空欄部

A

 なかなか ・

B

 あさまし の意味として、最も適切なものをつぎの中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

<table border="1"><tr><td>A</td></tr></table> なかなか	A				
A					
ア 非常に	イ かえって	ウ やはり	エ すぐに		

B あさまし

ア うつとらしい イ つまらない ウ 情けない エ 興ざめた

問七 傍線部(1)「道のほどの苦しさもしいたはる」とあるが、その理由として、最も適切なものをつぎの中から選び、記号で

答えなさい。

ア 知り合いの小町殿が、作者の宿の近くに住んでいて気遣ってくれたから。

イ 知り合いの小町殿が、作者に我が家に来ないかと誘ってくれたから。

ウ 知り合いの小町殿が、作者にあれこれと見舞ってくれたから。

エ 知り合いの小町殿が、作者の親戚の土御門定実に手紙を送ってくれたから。

問八 傍線部(2)「二人になりぬれば」を例にならって品詞分解しなさい。

(例) 暇なくて ↓ 暇 ／ なく ／ て

問九 傍線部(3)「おこたりぬれども」を現代語訳して答えなさい。

問十 I、IIの和歌は、それぞれ誰が詠んだものか。つぎの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい(ただし、同じ記号は二度以

上使用しないこと)。

ア 作者 イ 小町殿 ウ 將軍 エ 土御門定実 オ 善光寺の先達

問十一 本文中に書かれた内容の説明として適切なものをつぎの中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 作者は、善光寺参拝の案内人を小町殿に依頼したが、参拝前に姿を消した。

イ 作者は、鎌倉で医師に診てもらったところ、持病が出たのだと言われた。

ウ 作者は、当初自身の病気を風邪や鼻水が出る程度の軽症だと思っていた。

エ 作者は、早く回復するために、実家から陰陽師や医師を手配してもらった。

オ 作者は、三月に病気になる、八月になってようやく病状が改善した。

カ 作者は、鎌倉から長野の善光寺へ参拝に行こうとしたが、結局実現しなかった。

問十二 『とはずがたり』は鎌倉時代に書かれた作品である。同時代に書かれた作品として、適切なものをつぎの中から一つ選び、

記号で答えなさい。

ア 蜻蛉日記

イ 増鏡

ウ 落窪物語

エ 沙石集

*国語の問題は、著作権の関係上、2026年度入学者選抜のみ公開しております。

一般選抜A日程

2026年1月24日試験

〈出典一覧〉

国語

青山拓央

『心にとって時間とは何か』

講談社現代新書

国語

稲垣栄洋

『はずれ者が進化をつくる 生き物をめぐる個性の秘密』

ちくまプリマー新書

国語

宮武久佳

『自分を変えたい―殻を破るためのヒント』

岩波ジュニア新書

一般選抜B日程

2026年2月6日試験

〈出典一覧〉

国語

周司あきら

『男性学入門』

光文社新書

国語

犬塚美輪

『読めば分かるは当たり前? 読解力の認知心理学』

ちくまプリマー新書